



テレマカシー

vol. **23**
2010.1.20発行

テレマカシーとは？▶

Terima kasih=インドネシア語で感謝を表す言葉。在宅で看取らせていただいたある方は海外旅行が大好きでした。その方が最期にご家族に残された素敵な言葉を使わせていただきました。

恭賀新年

「2010年を迎えて」

開業以来はじめて年末に帰省しました
郷里で久々に迎えた元旦の朝は銀世界
雪かきに汗を流しました



郷里の元旦風景（滋賀県長浜市）

お蔭様で、この春で開業して8年になります
在宅医療、家庭医、そして市民活動
今年は開業時の理念にもう一度戻ります

医療的なケアが必要な子どもとご家族が
どの地域でもふつうの暮らしができるように
うりずんの運営と、必要な活動を続けます

連携医と訪問看護ステーションの協力を得て
連携による24時間の訪問体制を維持しながら
活動と休息の時間も取ります

お世話になっている皆さまと
スタッフ、家族に感謝します
今年もどうぞよろしくお願い申し上げます

外来では、普段から関わりを大切にし
子どもからお年寄りまでの方々の相談に応え
通院できなくなったら訪問します

2010年1月

ひばりクリニック・うりずん
高橋 昭彦

2006年4月から、心療内科の時間を設け、うつ病、摂食障害、不登校などの方々の診療を行ってきました。対人関係において、お互いの相手に対する期待と現実のズレはさまざまな症状を起こします。会話のやり取り(コミュニケーション)が十分でない場合も不具合が生じます。そこで、ご家族の協力を得ながら、対人関係のやり取りを見直す作業もしてきました。しかし診療の枠が十分に取れなかったり、協力できる家族がおられないなど、対応が難しいこともしばしばでした。統合失調症疑いや自殺企図のあるうつ病、PTSD(心的外傷後ストレス障害)の方は専門医にお願いしました。専門医の先生は的確に対応してくださり助かりました。

1回の診療には、およそ1時間、時にはそれ以上の時間

を要しました。抱えておられる問題は深刻で、次の仕事の前には休息が必要でした。一般外来と在宅医療の合間に確保した時間が予約で埋まると、新しい方の問い合わせには、時間を増やすか、断るか、一般の外来で来ていただくしか選択肢はありませんでした。しかし、在宅医療

では末期がんの方や人工呼吸器をつけた子どもの要請が増え、外来のご利用者も増えてくるなかで、

次第に立ち行かなくなってきました。

そこで、当院の理念に沿った診療体制を維持するために、大変申し訳ないのですが、このたび心療内科を休止とさせていただくことにいたしました。これまでのご利用に感謝いたします。ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

心療内科 休止のお知らせ

「医療的ケア実践セミナー2009 in 大阪」に参加してきました

2009年12月12～13日、大阪でNPO法人医療的ケアネット(杉本健郎理事長)主催のセミナーが開かれた。会員10,000円、非会員12,000円という参加費にも関わらず参加者は300人を超え、会場の大阪市立大学は熱気にあふれていた。



◀会場は大入り満員！

特別講演

● ホスpital・プレイ・スペシャリスト 市川雅子 さん

ホスpital・プレイ・スペシャリスト(HPS)とは、遊びを通して、病気の子も、障がいのある子どもを支援する役割を持った専門職である。イギリスの子ども病院を視察した市川さんは、泣き声が聞こえない、パジャマを着ていない、みんな遊んでいる、親(それに代わる人)が絶対そばにいる、という。医療的なケアが必要な子どもにとっても、遊びはケアと同じくらい重要なのである。医療のために遊びを我慢させたり取り上げるのではなく、安心して必ず遊ぶことができる環境をつくることを目指す。日本ではまだ新しい仕事であるが、今後の活躍が期待される。

全国シンポジウム

医療的ケアが必要な重症児者の「ショートステイとケアホーム」の具体的課題

全国シンポジウムでは、杉本健郎理事長からの問題提起に続き、ケアホーム、ショートステイ、当院うりずんの日中一時支援、宮城、東京、神奈川でのそれぞれの取り組みが発表された。

「現状と問題提起」

杉本 健郎 さん

新生児集中治療室を卒業した重症児を地域で受け入れるには、現状では母親が専任で世話をしないと成り立たない。ショートステイ(短期入所)は福祉の言葉だが、医療的なケアが必要な重症児には、福祉と医療を二階建てにした手厚い報酬が必須。ショートステイには、「入院」にありがちな治療側の論理による対応ではなく、子ども目線のケアや見守りといった「療育」の視点が必要である。ケアホームとは、障がい児者4人程度が共同生活する「家」であり、スタッフが24時間支援を行う。親が介護できなくなったときに、「施設入所」ではなく、ケアホームという選択肢もほしい。



李国本さん(左)と杉本さん(右)

「ケアホーム」

西島 悟司 さん

びわこ学園発祥の地である滋賀県大津市には、定員4名のケアホーム大平がある。国の共同生活介護の障がい福祉サービス費に滋賀県と大津市の補助を合わせて、朝夕2人、夜1人の職員配置を行うが、正規職員は0で運営は厳しい。しかも、日中は生活介護(通所)に通ってケアを受けてのことだ。県と市合わせて一人当

たり月117,000円の補助があってはじめて成り立つ。利用者負担はケアホームと通所で10万円程度。医療についてはびわこ学園と関連施設のバックアップを受けているが、入院は即、ケアホームの減収につながる。

「重症児施設のショートステイ」 常石 秀市 さん

兵庫県加西市の医療福祉センターきずなは、2007年に新設された重症心身障害児施設である。入所定員は80名(平均年齢22歳)。人工呼吸器10名、気管切開26名、経管栄養41名、抗てんかん薬61名など重症児者を受け入れている。小児科医3名と看護師30人でケアをする。

ショートステイの定員は8名である。利用者側の課題として、重症度が高く医療的ケアが高度化している、家と100%同じケアを要望される、利用中における体調不良が家族とのトラブルとなる、などがあげられた。施設側の課題として、利用者に見合う職員確保が困難、普段の状態把握が不十分のため職員のストレスが大きい、ウイルス感染まん延の危険性が大きい、少数の長期ステイ例やリピーターがベッドを占拠する、などがあげられた。

「生活支援としてのショートステイ」 李国本 修慈 さん

兵庫県伊丹市に拠点を置く有限会社しゅあーどは、行き場がない医療的ケアが必要な人を受け入れていくうちに利用者は150人にもなった。今では居宅介護(ホームヘルプ)、移動支援、日中一時支援、短期入所、相談支援、訪問看護を行い、障がい者の地域支援でやっていないのは生活介護(通所)だけ。他の法人が手を出しにくい日中以外を支えるという哲学で、通所や通園に通えない人にはきっちとホームヘルプにはいり、拠点に預かる。拠点は

はマンションの2LDK。風呂はユニットバスだが、毎日夕方の数時間はずっと稼働している。母親が亡くなられた重症者は、行政側から施設へと誘導されるのが常だが、そのルールをきっちり外して、「拠点」に住んでもらっているという。その人たちと向き合うため、今できることをやるのである。「医療職といわれる方には、このことに興味持って欲しい」と李国本さんは言う。

*

＜おわりに＞

13日には、医療的ケア入門講座、モデル人形（まあちゃん人形）を使った実技研修、専門職向け講座などが開かれ、最後には医療的ケア大阪宣言が出された。13日は参加できなかったが、初日だけで大阪の熱気は十分に感じられた。次回の実践セミナーは2010年10月16日～17日に仙台市で開かれる。

*

●NPO法人医療的ケアネット

<http://www.mcnet.or.jp/index.shtml>



医療的ケア実習用のまあちゃん人形



ここまで集ると壮観です・・・

うりずん日記

うりずん サービス管理責任者
看護師 三上 綾子



2010年、新たな年がスタートしました。2009年は、うりずん一周年記念事業「ゆめかなえ隊」が実現し、新たに3名の利用者が登録されるなど、ゆっくりではありますが、皆様に支えられながら確実に前進していることを実感できる嬉しい年でもありました。本年も引き続き、ご支援ご協力、お願い申し上げます。

うりずんの利用者様は医療依存度が高く、成長や発達、年齢など個々に合わせた支援と配慮が必要となります。定員3名で、利用を希望する日や時間は自由なため、顔ぶれやケアの時間帯は日々異なるのです。そのような状況でも家族以外の他人（友達や仲間）と一緒に過ごす体験は、とても貴重なものとなります。そのため、2009年12月にうりずんで、初の「うりずんクリスマス会」を5回に渡り、開催することにしました。

*

クリスマス会開催日は、スタッフが普段と異なる姿で（サンタやトナカイの帽子をかぶっています）部屋の中を行ったり来たりしますので、微妙な反応の利用者の姿に「失敗したかな～」と内心後悔しつつ、会がスタートします。

お昼の注入時間（お食事）の1時間を利用して、クリスマスソングから始まり、エプロンシアター「ジャックと豆の木」、大型絵本「ふゆのよるのおくりもの」を曲や効果音つきで読みます。そして、クリスマスソングが流れる中、クリスマスプレゼントを一人ひとりもらうのです。会の様子の記念写真は、手作りのクリスマスカードに差し込まれて、ご家族のもとへ。微妙な反応の利用者も、次第に引き込まれて楽しんでいきます。そんな利用者の笑顔や反応に一安心！これなら来年もまた工夫して実施できそう！と自信が持てました。

*

今回の「うりずんクリスマス会」は、宇都宮市社会福祉協議会の「施設歳末たすけあい事業」から、歳末たすけあい募金配分金の助成を一部受けて実施させていただきました。ありがとうございました。

また、ボランティア1名、福祉職体験実習生1名の方々が、ご都合の付く日程で参加してくださいました。ご協力ありがとうございました。



▲大型絵本「ふゆのよるのおくりもの」とエプロンシアター「ジャックと豆の木」



なにかが始まるの？



プレゼントだ～！



エプロンシアター上演中



院長と一緒に

●2009年10月～12月のご利用状況

区分	10月	11月	12月	合計
A	14	10	11	35
B	27	17	25	69
計	41	27	36	104

* 区分A…………人工呼吸器装着の方

* 区分B…………人工呼吸器を必要としない方

* いずれも延べご利用人数です

●2009年10月～12月のご来所状況

	10月	11月	12月	合計
見学者	13	9	3	25
ボランティア	1	2	1	4
計	14	11	4	29

* ボランティアは延べ人数です

●現在の登録状況

区分A(人工呼吸器装着の方)	3名
区分B(人工呼吸器を必要としない方)	7名
合計人数	10名
契約準備中の方 区分A	1名
契約準備中の方 区分B	0名
契約準備中の方の合計人数	1名

* 登録ご利用者の年齢……………2歳～14歳

●2009年10月～12月の寄付関係

ご寄付	4件
ご贈答品	2件

わっどわ〜

第14回「在宅ケア・ネットワーク栃木」

《開催のお知らせ》

日時 平成22年2月11日(木・祝) 10:00~15:20

会場 自治医科大学・地域医療情報研修センター大講堂

テーマ 「多職種がキャタピラーとなって推進する栃木の在宅ケア」

《呼びかけの言葉より》

高齢化の進展により在宅ケアの重要性が高まっています。よりよい在宅ケアを行うために、多職種連携は欠かせません。第14回大会のテーマを「多職種がキャタピラーとなって推進する栃木の在宅ケア」です。多職種がキャタピラーの様に切れ目なく連携し、様々な困難を乗り越え、「明日の在宅ケア」という道なき道を、力強く切り開いていくというイメージです。そして、これまでは大会長を医師の世話人が務めてきましたが、今回は薬剤師が担当し、薬という観点をエッセンスとして取り入れてみたいと考えております。さまざまなお立場のみなさまのご参加をお待ちしております。

大会長 大澤 光司 世話人(株式会社メディカルグリーン・薬剤師)

10:00 開会・挨拶 寺沼幸子(在宅ケア・ネットワーク栃木 事務局長)

10:10 基調講演1 「在宅ケアにおける薬剤師の役割」

日本薬剤師会 高齢者介護保険等検討会委員

くろしお薬局 川添 哲嗣さん

10:50 基調講演2 「錠剤粉碎の問題点と新しい経管投薬法-簡易懸濁法-」

昭和大学薬学部薬学教育推進センター准教授 倉田なおみさん

12:50 アピールの時間(20分間) *壇上で広報、宣伝、紹介など

13:10 シンポジウム

「多職種がキャタピラーとなって推進する栃木の在宅ケア」

須賀 潔さん(須賀歯科医院・歯科医師)

大川はるみさん(あいケアステーション・ケアマネジャー)

熊倉 幸江さん(ニチイケアセンター栃木・ホームヘルパー)

永井 恵子さん(とちぎ訪問看護ステーションみづ・看護師)

川添 哲嗣さん(くろしお薬局・薬剤師)

(座長) 太田 秀樹 代表世話人(医療法人アスミス・医師)

15:10 主催者・世話人挨拶、次期会長挨拶(15:20 頃終了予定)

*閉会后自由集会(会場は研修センター会議室を予定) 17:00 まで

プログラム

テレマカシー22号へ
寄せられた感想から

恩師との再会について

●恩師との再会、よかったですね。私にも同じような先生が3人こちらに健在で時々お会いします。教育者の偉大さを感じます。(宮崎県 池田輔昭さん)

●恩師で訪問の記事が特に心にしみました。つい先日、私の元にも50年ぶりに高校のクラブ顧問の先生から音信が届きました。(埼玉県 山崎礼子さん)

♡うりずんにご寄付を下された皆さん、テレマカシー発送用に切手をお送りくださいました皆さん、ありがとうございました。<(_)_>

【入会金】一般▶1,000円、学生▶500円

*ただし初年度の年会費は無料。

【年会費】(大会参加費含む)

一般会員▶1,000円、学生会員▶500円、

昼食お弁当▶1,000円(お茶付・要申し込み)

*円滑な大会運営のため事前申し込みにご協力ください

【事前申し込み】締め切り▶2010(平成22)年1月31日

【参加費振込】(郵便振替) 記号番号 00180-1-418778

加入者名:在宅ケアネットワーク栃木

*郵便振替をご使用下さい。通信欄に申込者住所、参加者全員の氏名、**弁当の数**を書き、合計額をお送りください。当日名札を用意しておきます。

【連絡先】

(学校法人) 産業教育事業団内在宅ケアネットワーク栃木事務局

〒328-0012 栃木市平柳町 2-1-38

電話・FAX: 0282-29-1050(留守電対応)

E-mail: carenet@cc9.ne.jp

*詳細はホームページを参照下さい。

<http://www.cc9.ne.jp/~carenet/>

「ひばりクリニック」のご案内

● 診療時間 ●

時 間	日	月	火	水	木	金	土
9:00~12:00	(休)	○	○	(休)	○	訪問診療	○
午後 (在宅医療)	(休診)	訪問	訪問	(休診)	訪問		訪問

● ひばりクリニックの運営理念 ●

- 1) 在宅で過ごされるご利用者に出前の医療を提供すること
- 2) 子どもからお年寄りまで診る家庭医の機能を提供すること
- 3) 障がい児・者やお年寄りの生活を支える市民活動を支援すること



〒321-2118 栃木県宇都宮市新里町丙357-14

TEL 028-665-8890 FAX 028-665-8899

E-mail hibari-clinic-01@theia.ocn.ne.jp

U R L <http://hibari-clinic.com/>

栃木県宇都宮市の北西部、新里町(にっさとまち)にある、ログハウス風の小さな診療所です。

● JR宇都宮駅から「ろまんちっく村」バス約35分

● お車で 東北自動車道 宇都宮ICより5分 宇都宮ろまんちっく村 入口向かい側

● この通信は、子どもから大人まで、障がいのある人もない人もどんな人も社会から排除されることなく、地域で一緒に生きていける世の中を目指して、ひばりクリニックが企画・編集しております。この通信についてのご意見・ご感想はひばりクリニックまでお寄せください。